

氏 名	安藤 美佐
学 位 の 種 類	博士（看護学）
学 位 記 番 号	第 1 5 号
学位授与年月日	平成 2 9 年 3 月 1 9 日
学位授与の条件	学位規程第 3 条第 3 項該当
学 位 論 文 題 目	褥瘡ケア管理者に求められる 「コンサルテーション能力自己評価尺度」の開発
論 文 審 査 委 員	主 査 操 華 子 副 査 佐々木 久美子, 萩原 潤

論文の要旨

【目的】

本研究の目的は、褥瘡ケア管理者が、自身のコンサルテーションの自己評価を行い、自己の課題を見出せる「コンサルテーション能力自己評価尺度」を開発することである。

【方法】

本研究は、2段階で行った。第1段階：褥瘡ケア管理を行う看護職に求められるコンサルテーション能力を明らかにすることを目的に、褥瘡ケア管理の勤務経験のある皮膚・排泄ケア認定看護師を対象に半構造的面接を行い、得られた内容を質的帰納的に分析した。導きだされた褥瘡ケア管理者に求められる能力に文献検討等を加え、質問項目原案を作成した。

第2段階：コンサルテーション能力自己評価尺度を作成することを目的に、病院の褥瘡ケア管理者を対象に、第1段階で作成した無記名自記入式質問紙を郵送法にて、予備調査1、予備調査2、本調査の3段階で行った。尺度の内的整合性は、尺度全体および下位尺度ごとの Cronbach の α 係数を算出した。また、尺度の妥当性は、探索的因子分析を実施後、確証的因子分析、さらに既知グループ法による弁別的証拠を吟味した。

倫理的配慮：研究参加の自由意思、参加の拒否権と断っても不利益はないこと等を文書で説明し、第1段階では同意書、第2段階では質問紙の返送をもって同意を確認した。第1段階は宮城大学看護学部・看護学研究科倫理委員会（承認番号 2013002）、第2段階は宮城大学研究倫理専門委員会（宮城大第 1485 号）の承認を得て実施した。

【結果】

第1段階：研究参加者 20 名、平均年齢 46.6 ± 5.9 歳、皮膚・排泄ケア認定看護師としての平均経験年数 9.8 ± 3.7 年、全員が専従の経験を有していた。褥瘡ケア管理者に求められる能力として、【看護職員の褥瘡ケアの自律を支援する能力】【自ら適切な褥瘡ケアを提供する能力】【褥瘡ケア関係者と信頼関係を構築する能力】【褥瘡ケアの質向上を探究する能力】【褥瘡ケアの実践をシステム化する能力】【褥瘡ケアをよくするために関係者と協働する能力】、【自身のストレス対処能力】の 7 カテゴリー、28 サブカテゴリー、180 コードが抽出された。コードを中心に、精選して 167 項目の質問紙を作成した。

第2段階：質問項目は、予備調査1で 99 項目、予備調査2で 39 項目に精選し、本調査用の質問紙を作成した。本調査では、【自ら適切な褥瘡ケアを提供する能力】、【看護職員の褥瘡ケアの自律を支援する能力】、【褥瘡ケア関係者と信頼関係を構築する能力】の 3 因子 29 項目が得られた。また、確証的因子分析では、3 因子 27 項目において、CFI=.900, RMSEA=.066 と比較的良好な適合度を示した。各下位尺度の Cronbach の α 係数は.85～.91 で、内的整合性が高いことが確認された。さらに、コンサルテーションに関する研修受講経験の

有無および皮膚・排泄ケア認定看護師資格の有無による下位尺度得点を比較した結果、弁別力のある尺度であると解釈でき、一定の構成概念妥当性が得られた。

【結論】

1. 3 因子 27 項目からなる褥瘡ケア管理者に求められる「コンサルテーション能力自己評価尺度」を開発し、一定の構成概念妥当性が得られた。
2. 本尺度は、褥瘡ケア管理者自身のコンサルテーションについて、27 の質問項目を 5 段階で得点化し、内容の不足点を改善する等、実践のために活用する尺度である。
3. コンサルテーションは、褥瘡ケアに関する問題を抱える看護職員との相互作用を通じて、問題解決を目指すことをコンサルティにも普及しながら活用する必要がある。

審査結果の要旨

本学位論文の目的は、医療施設に勤務する褥瘡ケア管理者が自己のコンサルテーションについて評価を行い、具体的な自己の課題を見出すことが可能となる「コンサルテーション能力自己評価尺度」を開発し、その尺度の信頼性ならびに妥当性を検討することであった。実際の研究は、1) 皮膚・排泄ケア認定看護師の資格取得後 5 年以上経過し、褥瘡ケア管理者として専従で医療施設に勤務する看護師 20 名を対象としたコンサルテーション能力を明らかにするための質的記述的研究、2) 1) の質的記述的研究結果から作成した 167 項目からなる「コンサルテーション能力自己評価尺度」の原案をさらに精選し、その信頼性ならびに妥当性を検討することを目的とした量的研究の 2 段階から構成されていた。量的研究で実施された 2 つの予備調査では、項目分析、探索的因子分析等を行い、尺度を 39 項目まで精選させ、全国の褥瘡ケア管理者 243 名を対象に本調査を実施した。構成概念妥当性を探索的因子分析、確証的因子分析、併存妥当性を既知グループ法、内的整合性については Cronbach α 係数を用い検討した。本研究の最終成果として、3 因子 27 項目からなる褥瘡ケア管理者のための「コンサルテーション能力自己評価尺度」を報告している。

本研究は、褥瘡ケアに関するコンサルテーションの評価基準の不足、医療施設内のコンサルテーション体制ならびに人材不足、コンサルテーションに関する理解不足という、本邦における褥瘡ケアのコンサルテーション上の課題を受け、実施されたものである。そのため、第 1 段階の質的記述的研究の対象者はコンサルテーションについて正しく理解をしており、卓越した褥瘡ケア・看護経験を持つ褥瘡ケア管理者として勤務している皮膚・排泄ケア認定看護師とする必要があった。この点について、データ収集計画から実際の対象者の選出ならびに半構造的面接の過程において十分な配慮がなされており、論文提出者が一般論ではなく褥瘡ケアという実践に根差した尺度開発のために尽力したことは評価に値するといえる。また、論文提出者が開発をした尺度と同様のものが本邦には報告されていないこと、将来的には医療施設における褥瘡ケア管理者のコンサルテーション能力の自己評価ツールとして活用され、論文提出者が課題とした褥瘡ケアにおけるコンサルテーション上の問題解決のために有用な資料を与えるものとなり、今後のさらなる褥瘡ケアの質の向上が期待できることは、本論文の重要な意義であり、審査委員全員が高く評価した。

この研究について対面審査の結果、以下の内容に関する指摘がなされた。①コンサルテーションは諸外国でも検討、探究されてきているものであり、海外における知見を整理し、加筆すること、②既存の研究に関する知見の記述がナラティブレビュー的であるので、システマティックレビューとしてまとめなおすこと、③文献検討から得た知見をふまえ、本研究の意義を深めること、④第 1 段階の質的記述的研究のコード、サブカテゴリー間の整合性がとれていない箇所があり、修正すること、⑤第 1 段階、第 2 段階での研究の対象者の選出について不明確な内容があり、明記すること、⑥第 2 段階の量的

博士論文要旨・審査結果要旨

学外公表用様式

研究の結果を示す本文内の記述ならびに表の記載において不備が見受けられるので修正すること、⑦第1段階ならびに第2段階のプロセスならびに結果をふまえ総合考察を述べること、⑧信頼性・妥当性の検討について総合考察での記述が不足しているので加筆すること、⑨研究の限界・展望においては、本研究結果をもとに記載すること、⑩誤字・脱字が散見されるので修正すること、⑪論文本文内での引用文献表記方法が誤っているのを修正すること、などであった。その結果、修正論文が提出され、修正論文をあらためて審査した結果、上記の指摘事項の大方について修正されていたことが確認された。

以上から、審査委員全員は、論文提出者が学位申請論文の内容および関連事項について十分な学識を有しており、提出された学位論文は既存の知識体系に新たな知見を与える新規性ならびに将来性が認められるものであることから、博士（看護学）の学位を授与するにふさわしいものであることを認めた。